耐寒性・収量性が高く、優れた製茶品質を有する中晩生の緑茶用品種「はるのなごり」

農業総合センター山間地帯特産指導所

本県のチャ産地は経済北限に位置しますが、品種構成が「やぶきた」に偏重しており（約70%）、摘採・製茶作業の集中、病害の多発、香味で差別化できない等の問題が生じています。このため、耐寒性が強く、収量・品質等に優れた新品種導入による品種構成の改善が必要となっています。

そこで、これらの課題を解決する本県チャ産地に適した品種として、「はるのなごり」を選定しました。

「はるのなごり」の生育特性

「はるのなごり」は、「やぶきた」より萌芽期が４日、一番茶摘採期が２日ほど遅い中晩生品種です。樹勢が強く、一番茶収量は「やぶきた」と比べ24%ほど多収です（**写真１、表１**）。

また、耐寒性や主要病害である炭疽病の耐病性に優れます（**表１**）。

写真１　生育状況の比較

左：はるのなごり
右：やぶきた

（定植11年目）

表１　「はるのなごり」の生育特性

品種	摘採日（月日）	樹高（cm）	株張り（cm）	一番茶生葉収穫（kg/10a）	寒害（赤枯れ）発生程度	炭疽病発生程度
はるのなごり	5.25	93	118	140	2.4	1.1
やぶきた	5.23	77	94	113	2.8	1.8

注1）樹高、株張りは令和２年の値、他は平成27年～令和２年の平均値。
注2）寒害、炭疽病発生程度は、１（無）～５（多）。

「はるのなごり」の荒茶品質

「はるのなごり」の一番茶荒茶官能評価は「やぶきた」と比べ、外観（形状、色沢）は明らかに優れ、内質（滋味等）は同等です。一番茶荒茶の成分分析は、うまみの指標となる遊離アミノ酸等の含有率は高く、渋みの指標となるタンニン含有率は低いです（**図１**）。生産者による試飲評価においても、「やぶきた」より高い評価が得られています。

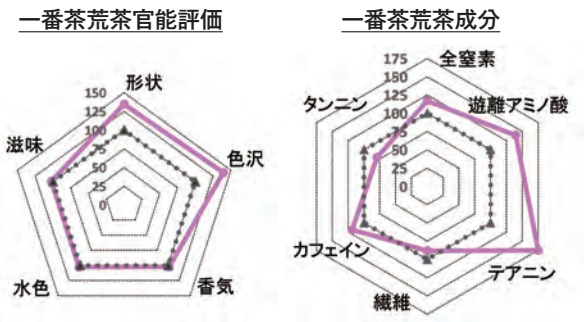

図１　はるのなごりの荒茶品質

●は「はるのなごり」、▲は「やぶきた」を示す。
値は「やぶきた」の数値を100とした相対値。

「はるのなごり」の導入効果

「はるのなごり」は中晩生の高品質、高収量品種です（**表１、図２**）。本品種を「やぶきた」に置き換えて導入することで、製茶工場の作業ピークを分散し、摘採遅れによる品質低下を少なくできます。

「やぶきた」の改植時期に、「はるのなごり」への品種更新が期待できるので、県茶生産者組合連合会や各茶生産団体等を対象に情報提供を行っていきます。

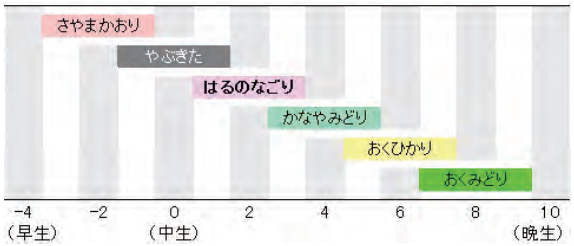

図２　「はるのなごり」と県内の主な栽培品種の摘採期

注）摘採期は「やぶきた」を基準に、早生をマイナス、晩生をプラスで示す。単位は日。